

## 令和元年度第1回 習志野市地域支え合い推進協議会

### 【開催日時・場所】

令和元年7月26日（金） 午後2時から  
習志野市庁舎1階会議室

### 【出席者】

（委員）※50音順

市瀬委員、大川委員、沢田委員、杉山委員、鈴木委員、立石委員、西野委員、  
藤平委員、松井委員、山下委員

（市）

菅原健康福祉部長、中村健康福祉部主幹、岡澤高齢者支援課係長、  
伊藤同課係長、中村同課主査、和田同課副主査、  
野苺家同課主任主事、山下同課主任主事、小松同課主事補

（第2層生活支援コーディネーター）

秋庭（谷津圏域）、大川（秋津圏域）、

井上（津田沼・鷺沼圏域）、伊藤（屋敷圏域）、細野（東習志野圏域）

### 【傍聴人数】

5人

### 【次第】

1 開会

2 委嘱状交付

3 会議録署名委員の指名

4 健康福祉部長挨拶

5 議事

（1）住民主体による活動団体補助金交付決定状況

（2）在宅高齢者を支える担い手づくりの現状について

（3）第2層協議体の進捗状況について

6 その他

7 閉会

### 【配布資料】

資料1 補助金交付団体（令和元年 6月末現在）

資料2 在宅高齢者を支える担い手づくりの現状について

資料3 各日常生活圏域 協議体での検討事項について

資料3-1 谷津圏域 介護事業所を活用した住民主体の通いの場づくり

資料3-2 秋津圏域 サロンを通じた「見守りの効果」の確認

資料3-3 津田沼・鷺沼圏域「津田沼・鷺沼・鷺沼台・藤崎高齢者集いマップ」

資料3-4 屋敷圏域 「地区別社会資源・サービスの分類（屋敷圏域）」

資料3-5 東習志野圏域 「宅配マップ」「あじさい通信 2019.01 発行 No. 10」

## 【1 開会】

中村健康福祉部主幹の司会進行により、開会。

## 【2 委嘱状交付】

健康福祉部長より、2名（松井委員、立石委員）に委嘱状が交付された。

## 【3 会議録署名委員の指名】

会議録署名委員が杉山委員と市瀬委員に指名された。

## 【4 健康福祉部長から挨拶】

健康福祉部長から、委員に対し挨拶。

## 【5 議事】

### （1）住民主体による活動団体補助金交付決定状況

（岡澤高齢者支援課係長から資料1に基づいて説明）

<山下会長>

それらの団体はサービスBではないのか。

<岡澤高齢者支援課係長>

いまのところサービスBの団体はないが、今後出てくる可能性はある。

<山下会長>

習志野市で一般介護予防の取り組みが広がっていることを評価し、サービスBの活動が動いていないことを認識する。

### （2）在宅高齢者の生活を支える担い手づくりの現状について

（杉山委員から資料2に基づいて説明）

<山下会長>

シニアサポーターをグループ化するだけで、市認定ヘルパーの就労者がそのなかに入っているわけではないのか。

<杉山委員>

就職されている方は一人しかいない。しかし養成講座の中で、ボランティアとしても活躍していただくようお願いしている。

<山下会長>

シニアサポーターのグループ化のメンバーにも入っていないということか。

<杉山委員>

参加者 7 名は就労者である。市認定ヘルパーをグループ化しているのと同じである。

<山下会長>

依頼内容はどのような内容なのか。

<杉山委員>

掃除や病院の付き添い、買い物支援などである。

<山下会長>

依頼は本人からなのか。

<杉山委員>

要介護認定をもっている方のケアマネージャからである。

### (3) 第 2 層協議体の進捗状況について

<秋庭第 2 層生活支援コーディネーター>

谷津町では、長年高齢者の集える場がないという課題があった。7 月からコープ未来谷津町デイサービスセンターの空きスペースを利用し、てんとうむし体操の運営を開始したところである。今現在 2 度開催して、参加者は 2 名、3 名となかなか集まっていない状態である。チラシを配るなどの広報活動は行っているが、このデイサービスに到着するまでに大きな坂道があり、バスが少ない地域なので、この坂道をどう乗り越えて集まってもらうのか、足の問題が今後の課題である。

<杉山委員>

どういったきっかけでこの運営が開始したのか。

<秋庭第 2 層生活支援コーディネーター>

デイサービスから空きスペースがあり、集いの場としての活動に利用していたきたいとお申し出があったことと、住民の思いが合致し、運営開始にいきわたった。

<山下会長>

集える場がないということ掘り出してくださった住民が、7 月開催の参加

者にあたるのか。

<秋庭第2層生活支援コーディネーター>

集える場がないと思っていた方が集まった。また、開催する時期や天候に左右されると思った。お盆であったり、土砂降りだったり坂道の上にあるので人集めに苦戦している。

<山下会長>

苦戦しているところを逆手にとって、その出来事にちなんだサロン名にしたりするとよいと思う。また、デイサービスと住民の方のつながるところに、私たちが手伝えるということを決めた今回の活動の良さにしてよいと思う。少し外から眺めながら住民主体の対応をし、一緒に手伝えるという歩幅をつくっていくというんなことが見えてくると思う。

<藤平委員>

谷津の“ひだまり”で青空カフェを2年くらい運営している。今は法人で運営しているが、最終的には地域の方に繋げたいと思いながら活動をしている。ぜひ一度、覗いていただきたい。

<杉山委員>

足の問題はどの地域でも課題になってきている。全国社会福祉協議会では、車または同乗者を特定して保険に入ることができる制度がある。コーディネーターとしてだけでなく、社会福祉協議会として協力できることがあると思うのでぜひご相談いただきたい。

<大川第2層コーディネーター>

秋津圏域での今年度の協議体の内容は、サロンや集いの場がどのような役割を果たしているのかを知り、高齢者を見守ることを意識してもらおうきっかけづくりに視点を置いて開催した。参加者の方は元気だから、困ったことはないという意見が多数だった。しかし、今後どうしても参加できなくなるということが出てくると思う。そういったときに私たちが専門機関と協力しながら、早期に支援できる連携が図れるような関係性が必要だと話をした。現状に適する事例がないので、今後内容についてさらに柔軟に検討していきたい。

<山下会長>

サロンは何か所あるのか。

<大川第2層コーディネーター>

袖ヶ浦地区に限定をして、約6か所である。

<杉山委員>

それぞれのサロンの方が和やかに意見交換していて、一つの地区ごとに協議体を開催するのはとてもよいと思う。

<山下会長>

いま元気な方が元気でいられるようなサロンはある。病気になっても通い続けたいと言い合えるような環境づくりを、私達は重視する必要があると思う。参加できなくなっても手紙を出すなど、関わりを続けていくことができる仕組みをコーディネーターの方には作っていただきたい。

<井上第2層生活支援コーディネーター>

津田沼・鷺沼圏域では、前回の報告以降2度、協議体を開催した。内容は大きく3つあり、一つは集いマップのバージョンアップのための意見交換、二つ目は生活支援体制整備事業の理解を深めていただけるよう復習、実演を行った。三つ目は津・鷺だよりについて検討をした。また、商店街で70歳以上限定で昼カフェというカフェを開始した。新しく集いをつくるということは、身近なことだと感じていただくことが必要であることを意識した。今後は、集いの場への男性の参加が少ないことの検討をしていきたい。

<杉山委員>

昼カフェはどのようなきっかけで開始したのか。

<井上第2層生活支援コーディネーター>

もともと朝カフェというものがあり、朝は来られない人もいるから昼カフェはどうかという話をしたのがきっかけである。

<鈴木委員>

今後、私がサロン等の活動に参加する立場になったときの活動場所があるかどうか不安である。

<井上第2層生活支援コーディネーター>

津田沼・鷺沼圏域でも、集いの場はあるけど担い手がいらない、逆に担い手はあるけど、集いの場がないという相談をよく受けるが対応できていない。

<杉山委員>

いま、32時間のボランティアをすると単位がもらえるという取り組みをし

ている大学がある。社会福祉協議会のホームページにそのような募集をかけ、学生が手伝ってくれる可能性があるかもしれない。また、集える場については空き家を何かに利用してほしいという依頼が時々ある。そういった情報を日頃からいただけると、協力できることがあると思う。

<山下会長>

人がいない、場所がないというのは手を変え品を変えるしかない。優先度や間合いを1層、2層のコーディネーター同士で共有していけたらいいと思う。また、杉山委員が社会福祉協議会に属していることを、一つの資源として活用できたらさらに良いと思う。

<大川委員>

具体的にどんな活動をどれくらいの時間やっているのか。

<井上第2層生活支援コーディネーター>

まだ一度しか開催していないが、第3火曜日か木曜日の13時半から15時半を予定している。また、アコーディオンの演奏をやってくださるという話もでているので、歌声喫茶のようにしたいと考えている。

<山下会長>

集いの場、通いの場は公民館や空き家を利用する機会が多いが、こうしたカフェなどのすでにある資源を使うやり方もある。今いる人のために資源をつくるということをして力にしていきたい。

資源には行政の資源、非営利の資源、営利の資源、インフォーマルな資源の大きく4つある。私達が作ろうとしているサロンはインフォーマルな資源であり、住民同士の約束をして作っていくことに、どれだけ私達が乗るかが重要になってくる。ここまでリスト化したら、人や場所がない問題のアドバイスをもらえる可能性がある。集いマップは必要であるから引き続き、気を引き締めてマップの作成をしてほしいと思う。

<伊藤第2層生活支援コーディネーター>

屋敷圏域では、協議体のなかで一枚の模造紙に、地区ごとにどんな活動をしているのかを、民生委員や高齢者相談員の方々と分類を行った。その分類を行うことで情報共有ができ、新たにたくさんの情報をいただくことができた。それらの情報をまとめて一覧で見られるようになったことで、担い手としての自覚や活動を客観的に見られるようになったと思う。また、自らの言葉で語っていただくことで他人事ではなく、自分事として捉えていただけようになったのが、一つの発展だと思う。

今後は、資料の空欄部分に何か開発できるかという検討をしていきたいと思う。泉町は特に福祉課題の多い地区であり、高齢者世帯だけでなくも重層的な課題を抱えている方が多い。高齢者相談センターの業務としても、重度化してからの支援になってしまう。しかし今年度、転倒予防体操推進員等の市の事業の増員があり、泉町地区の方が受講して下さった。まずは、福祉課題の多い地域に焦点をあて、介護予防を支援してことが重度化を防ぐという大きな課題の解決につながっていくと思う。

<山下会長>

インフォーマルな資源が、地区にどれくらいあるのか共有することで、色々な意見交換をするきっかけになるので、とてもいいものだと思う。一昨日、私は愛媛県のあるところで昨年水害があって、1階部分が水につかってしまった方々のケース検討をした。そのようなことを目の当たりにしたときに、ソーシャルワーカーがどうするか。一つは健康を維持できるような働きかけをすること、もう一つは助けてくれるかはわからないが、ご近所に困っていることを伝えることができる、見守りのネットをかけるかどうかということ。個別課題ではなく地域課題、自立支援制度だとか生活保護に関連すること、こうしたことからみえてきた複合的な地域課題が社会資源の整理の中から出てくるかもしれない。

<細野第2層生活支援コーディネーター>

東習志野圏域では、協議体が行われたら必ずあじさい通信というものを発行している。協議体については、初回に買い物支援について課題が出て、それを引き続き検討しているところである。通信で載せている第4回は今年の1月に行われたものだが、買い物支援のマップをどのように作ろうかというのが、このときの検討課題になっている。直近では5月に開催した協議体の最後に、地域のマップに載っているような移動販売や宅配についての情報を「皆さんで集めて持ってきてください」というお願いをしている。実際に協議体の参加者が移動販売のところに行き、詳細なルートを書いて持ってきてくれたりしている。そのような情報を集めたりして、マップの検討をしているところである。もう一つの資料は、字の大きさだとか、掲載事業所の数だとかを検討していただいた。今後は10月と1月に協議体を行う予定で、次回までに懸案をお示しして、そこである程度検討できれば、その後、配布についての検討をしていきたいと考えている。

<杉山委員>

この協議体に参加している方達は、自分達の持っている情報を惜しみなく、この会議の中でお伝えいただいているというのはすごく感じている。これを作

るにあたって、白地図に店や店舗のある所だとか、移動販売がこのルートで走っているとかを民生委員などが詳しく、毎回和やかにできてるのは、一番最初の細野第2層生活支援コーディネーターの掴みが良かったとのと、人選がとてもよいと感じている。素晴らしいマップが出来上がると思う。

<藤井委員>

毎回参加しているが、メンバーが非常に多様である。企業、法人、関わるメンバーだけじゃなく、お店の方というような地域に関わっている人をたくさん呼んでいただいている。マップは難しいものであるが、皆で作りに上げていただきたい。

<細野第2層生活支援コーディネーター>

マップを作る方向になってから、果たして完成できるのか、今も不安な状況である。協議体を開催する度に自分達の発想に無かったような意見が次々出て、気付かされることがある。次回完成させたいと思っているが、私達も掲載の許可をもらうために、移動販売の所に行ったりしている。そこで実際に買っている方の話も非常に参考になって、そこからまた新しい情報が得られ広がりもみえているところである。

<杉山委員>

店舗に実際行って、やっていただけることの確認や、お店のPRなども掲載されていくとお店もメリットがあるし、私達も色々なものが記載できると思う。お店の方にしっかりと説明すれば、親身になってそういうことであれば協力できると言ってくれる。そういったことも含め、皆さんと一緒にできたらより自分達で作ったマップになると思う。

<立石委員>

このような情報を得る方法論等があれば教えていただきたい。

<細野第2層（東習志野圏域）>

最初の第1回目の協議体を始める時の声をかけさせていただくメンバーを考えた時に、民間企業の方を呼びたいという思いがあって、見守りなどの別の関係があってお声かけをしている。移動販売については、日頃、高齢者相談センターで持っていた情報もあるが、主には地域の方の情報ばかりで、実際に行って詳しく聞き掲載の許可をいただいている。

<松井委員>

我々の場合、コーディネートする機能よりも皆さんにどう使っていたただけ



るかという趣旨が強い。細野第2層生活支援コーディネーターの東習志野圏域とコラボレーションさせていただいているところもある。我々の事業が必ず毎週1回そこにお伺いするというのは強みでもあり、共同購入自体絶滅危惧種で、高齢化しているから、今は戸配の方が多くなっている。その一人暮らしの方が残念ながらお亡くなりになっているのを我々の配送員が見つけたりと、大量の商品を買っても自分で家の中に入れられなかったりもする。やはりそれを頼まれれば我々の配送の人間が冷蔵庫まで持っていき、リスク管理から言えば上がらない方がよい。我々のチャンネルもこれから皆さんのところで上手く使っていただく、選択肢の一つには成り得ると思う。

<山下会長>

民生委員やシルバー人材の方の現状、この協議会の感想等をお願いする。

<市瀬委員>

健康寿命をいかに仕事をすることによって延ばすかという趣旨でやっている。前回の協議体の時にシニアサポーターなど色々な話を知ることができ、今回は集いの場として空きスペースをお借りして活動をしていることなど、協議体の運営が活発になって非常に嬉しい。

<西野委員>

人材が集まっていない現状である。今担い手になっている方が、支えてもらう立場になった時に、新しい若い世代の方をお願いしたいという思いはあるけれど、なかなか難しい。地区民生委員の立場で話をしても地域としてでた話にならない。人材については今後、さらに検討していく必要がある。

<山下会長>

民生委員さんでこの人出来そうという人を探して、お伝えするのもコーディネーターの醍醐味だと思う。サロンで頑張っているような方がもしかしたらコーディネーターに向いてる、そういうものが実態的な地域づくりだと思う。

<大川委員>

介護を終えた家族が、介護が終わってこれからどうするか、理想は介護しながら地域との結びつきで、気分転換などを見つけて続けられたらよい。しかし、そういった余裕もなく、なかなか見つけられない。介護が終わってからどんな活動があるのかを皆さんから色々な情報をいただいたので、これからは繋げていければよいと思った。一覧なども参考に、地域にあてはまる場所の情報提供をしていきたい。集いの場に参加条件はあるのか。

#### <井上第2層生活支援コーディネーター>

条件があるところもあるが基本は自由である。分からなかったら、高齢者相談センターなどに繋いでいただきたい。

#### <山下会長>

細野第2層生活支援コーディネーターが作成中の宅配マップと移動販売マップは、一枚にまとめて作るのか。

#### <細野第2層>

両面などにして、一枚につくる予定である。

#### <山下会長>

宅配と移動販売の二つが高齢者の買い物支援の武器になるようなことを地域課題の対応策として成果にしていく。移動販売は各お店とどのような協力体制をつくり、移動ルートを作っていくのか。その移動ルートもコーディネーターが耕していったというよりも、民生委員や生活の姿を知っている方々が発見しながら移動ルートができていくとよい。数年経つと色々と動き始めるということを実感しながら、これを習志野市の集いの場やサロンの運営などのリーダー同士の意見交換を個別の課題を意識する。その個別課題を地域課題として捉えて、習志野のこの生活支援体制整備が進んでいるという自己評価をしていただき、今年度後半いろいろな課題をみつけることになると思う。小さなスタートやその年度では解決しないことを、数年かかれば変わっていく可能性があるという地域だということを経営の方々と共有しながら、あるいは、一般的な年度にこだわらないことも地域づくりには必要だということ声をかけていただきたい。また、民生委員の方とかシルバー人材の方は既存の資源の繋がり方をもう少し考えていただきたいと思う。杉山委員と共有をしていくことはコーディネート業務では重要である。

#### <杉山委員>

この会議でそれぞれの圏域の協議体に参加させていただいているが、それぞれの圏域のコーディネーターの方達が地域をみて、それを解決していくためにどういう人達に集まっていたらいいのかと、工夫されている会議だった。高齢者相談センターと社会福祉協議会は、この取り組みが始まるまでそれほど関わりがなかった。各高齢者相談センターで抱えている課題をシニアサポーターで支えてもらえないかと電話をいただいたり、その協議体に呼んでいただいたりすることで、各高齢者相談センターの持っている課題や「地域の皆さんの応援をしていかないと事業対象者の方が困ってしまう」などが見えてきたので、今後連携して課題解決をできたらと思う。各高齢者相談センターで、ある課題

を地域全体の課題として解決できるような話し合いを皆さんとできて、委員の皆様も習志野市が変わっていくことに、自分達がそのための意見を言えたんだというような会議になっていくといいと思う。

<山下会長>

社会福祉協議会の従来の地域福祉の立場と、地域包括ケアの一環で総和が始まった地域包括支援センターが共通に地域の資源、課題を解決しようということが目標になったときに、社協と相談センターを繋いでいくという総合的包括的な推進体制を習志野市の高齢者支援課等では図ろうとしている。励まし合いながら頑張っていたきたい。

## 【6 その他】

<中村健康福祉部主幹>

次回は来年の2月ごろを予定している。本会議の今後の運営については、現在検討をすすめているところである。

## 【7 閉会】